

くじゅう地区管理運営協議会

平成27年度 活動報告



阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンター

目次

| | |
|------------------------------|-----------|
| I. 長者原ビジターセンター等運営管理業務 | 2 |
| 1. 長者原ビジターセンター利用状況 | 2 |
| (1) 入館者数 | 2 |
| (2) ハイビジョン映像上映回数 | 3 |
| 2. 利用案内と展示・自然ふれあい事業 | 4 |
| (1) 利用案内 | 4 |
| (2) 館内展示および自然ふれあい事業 | 5 |
| ① 常設展示 | 5 |
| ② 企画展示 | 8 |
| ③ 自然ふれあい事業 | 10 |
| a) タデ原の自然観察会 | 10 |
| b) 自然解説員（インタープリター）利用事業 | 11 |
| c) 視察研修対応 | 13 |
| ④ 館内維持管理業務 | 13 |
| | |
| II. 教育・普及啓発活動 | 14 |
| 1. 普及啓発活動 | 14 |
| (1) 各種イベント | 14 |
| (2) 広報活動 | 16 |
| 2. 環境教育活動 | 22 |
| | |
| III. 自然環境保全・調査活動 | 25 |
| 1. 自然環境保全活動 | 25 |
| 2. 調査活動 | 26 |
| | |
| IV. 登山道等管理活動 | 27 |
| 1. 登山道保全活動 | 27 |
| 2. 長者原周辺の美化清掃活動 | 27 |
| (1) 清掃業務 | 27 |
| (2) 園地管理業務等 | 28 |
| (3) タデ原湿原木道の保守業務 | 28 |
| | |
| V. その他 | 29 |
| 1. 職員研修実績 | 29 |
| 2. 新聞掲載記事 | 32 |
| 3. 地域の概要 | 37 |
| 4. 運営体制 | 38 |

I. 長者原ビジターセンター等運営管理業務

1. 長者原ビジターセンター利用状況

(1) 入館者数

- ・平成 27 年度の来館者数は、133,069 人であった（前年度比：約 3%増）。
- ・入館者数カウンター設置（平成 21 年度）以降、過去最高入館者数を達成。
- ・今年度も 5～10 月は開館時間を延長した（通常 16 時閉館のところ 1 時間延長し 17 時閉館）。
- ・来館者増につながった理由として、平成 27 年 3 月に、展示の全面リニューアルが行われたとともに職員手作り展示の「ハンズ・オンコーナー」が既設展示の中に組み込まれ、展示活動が充実したことが挙げられる。また、平成 26 年度のバリューアップ事業による、国際化対応職員の配置に伴い、英語を中心とした多言語対応が可能となり、インバウンド利用が増加したことも挙げられる。
- ・繁忙期の 7～8 月の来館者数は例年よりやや微減となったが、10 月は晴天が続いたため、くじゅう連山の紅葉が美しく、来館者が大幅に増加したことから、全体として増加に転じた。

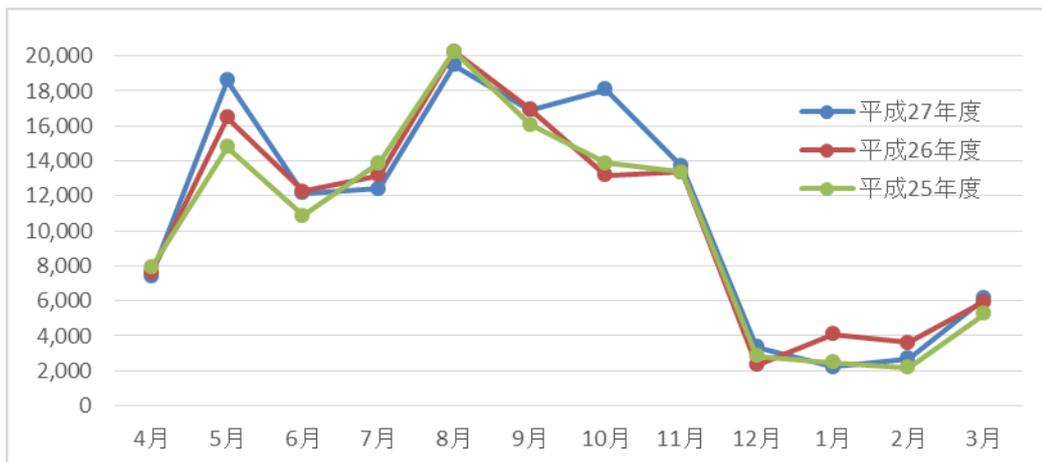


館内利用の様子

表 1. 来館者数一覧表（平成 25 ～ 27 年度）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 累計 |
|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 平成27年度 | 7,416 | 18,599 | 12,133 | 12,397 | 19,477 | 16,893 | 18,086 | 13,672 | 3,355 | 2,227 | 2,692 | 6,122 | 133,069 |
| 平成26年度 | 7,605 | 16,461 | 12,274 | 13,160 | 20,256 | 16,928 | 13,162 | 13,357 | 2,337 | 4,092 | 3,623 | 5,953 | 129,208 |
| 平成25年度 | 7,913 | 14,802 | 10,875 | 13,866 | 20,228 | 16,051 | 13,881 | 13,353 | 2,859 | 2,482 | 2,196 | 5,249 | 123,755 |

図 1. 来館者数推移（平成 25 ～ 27 年度）



(2) ハイビジョン映像上映回数

- ・平成27年度ハイビジョン映像上映回数は1,029回（前年度比約34%増）、延べ人数9,777人であった（前年度比：約26%増）。
- ・ハイビジョン上映回数及び上映人数が増加に転じた理由として、多言語でも上映可能であることを、職員が直接外国人利用者に対して、積極的に働きかけたことが挙げられる。
- ・平成27年度から、外国人団体の視察研修でのハイビジョン映像利用も見られた。
- ・韓国のツアー会社が、長者原ビジターセンターで映像を見るアクティビティを、ツアーに組み込んだことなども、増加の要因と考えられる。



ハイビジョン映像上映の様子



映像の多言語字幕付き上映

表2. ハイビジョン映像上映人数一覧表（平成25～27年度）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 累計 |
|-------------------|-------------|---------------|---------------|-------------|---------------|---------------|-------------|----------------|------------|-------------|-------------|-------------|----------------|
| 平成27年度 (うち外国語) | 582 (64) | 1,318 (92) | 1,286 (84) | 876 (28) | 1,114 (45) | 1,123 (31) | 942 (24) | 1,598 (103) | 290 (0) | 127 (11) | 216 (64) | 305 (13) | 9,777 (559) |
| 平成26年度 | 630 | 1,155 | 921 | 711 | 1,168 | 755 | 847 | 912 | 175 | 45 | 135 | 292 | 7,746 |
| 平成25年度 | 457 | 554 | 770 | 682 | 1,207 | 622 | 904 | 1,015 | 94 | 117 | 113 | 375 | 6,910 |

図2. ハイビジョン映像上映人数推移（平成25～27年度）

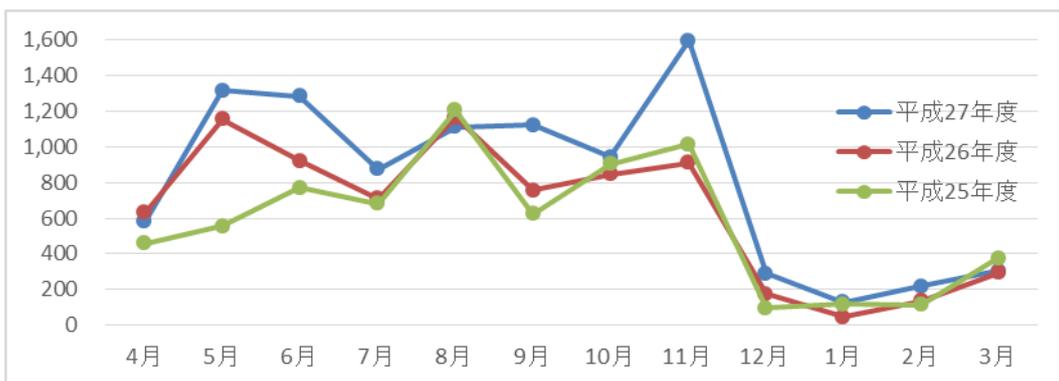
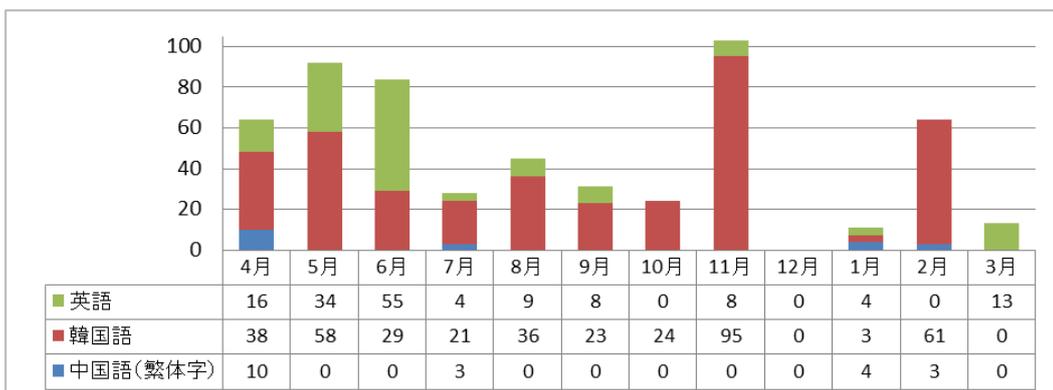


図3. 外国語上映人数内訳（平成27年度）



2. 利用案内と展示・自然ふれあい事業

(1) 利用案内

- ・長者原ビジターセンターカウンターにて、国立公園の利用案内および自然情報等の提供を行った。
- ・英語での利用案内・解説ができる自然解説員を、週3日以上配置し、利用案内の国際化に努めた。また、どの職員でも、英語での利用案内・解説ができるように、館内やタデ原、登山や周辺施設の利用案内の英語対応マニュアルを作成し、必要なときに閲覧利用できるようにした。
- ・ラムサール条約やタデ原湿原についてのパンフレット（日本語版：九重町作成）の英語版及び韓国語版を作成し、配布を行った。
- ・海外からの利用者に向けて、利用状況や改善点を把握するためのアンケート調査を行った。



受付カウンターでの利用案内の様子



登山情報および最新自然情報



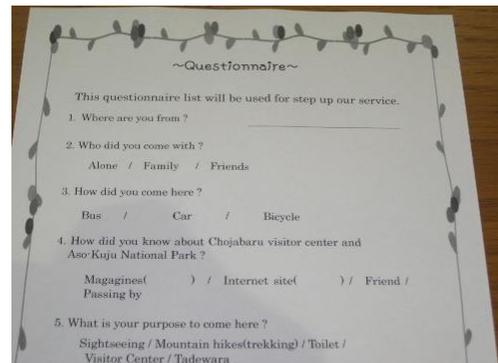
外国人に対する利用案内の様子



多言語対応が可能であることを受付に掲示



タデ原マップ（英語版・韓国語版を作成）



外国人利用者向けアンケート用紙

(2) 館内展示および自然ふれあい事業

① 常設展示

- ・延べ 118 回展示更新（月に 10 回程度更新）。平成 27 年 3 月の展示改修により、英語・韓国語・中国語（簡体字）の解説シートが設置されたことから、海外からの利用者が常設展示を楽しめるようになった。また、展示や館内解説の一部を英語化し、展示・案内の国際化に努めた。

| 展示内容 | | 展示箇所 | 更新頻度 |
|---------------------|-----|------------|------|
| 旬の見どころ紹介ボード | 写真① | 2階入り口 | 月に1回 |
| お知らせコーナー（自然観察会等紹介） | 写真② | 2階入口付近 | 年4回 |
| くじゅうの自然写真館 | 写真③ | 2階受付付近 | 月2回 |
| 登山のルールとマナー | 写真④ | 2階受付付近 | 年5回 |
| 観光情報コーナー | 写真⑤ | 2階受付付近 | 年4回 |
| 展望コーナー | 写真⑥ | 2階展望スペース | 随時 |
| くじゅう連山自然情報 | | 2階受付横 | 年3回 |
| ハンズ・オンコーナー | 写真⑦ | 1階壁面付近 | 月1回 |
| ワークテーブル | 写真⑧ | 1階 | 年4回 |
| くじゅう連山衛星写真 | 写真⑨ | 1階中央部 | なし |
| くじゅうの植物図録 | 写真⑩ | 1階野焼きコーナー横 | 月2回 |
| タデ原フィールドガイド | 写真⑪ | 1階入り口付近 | 週1回 |
| キッズコーナー | 写真⑫ | 1階階段横 | 随時 |
| くじゅうの自然を支える活動 | 写真⑬ | 階段ボード | 年4回 |
| モニタリングサイト1000里地調査紹介 | 写真⑭ | 階段ボード | 年1回 |
| 企画展示 | | 1階及び2階 | 年4回 |

デジタルセンター2階

- ・2階はメイン入口となっており、来館者の出入りも多いため、自然に関する最新情報（旬の見どころや国立公園・登山道情報）や、展望を利用した休憩スペースを設置している。また、観光利用者や登山初心者向けに、登山の服装等のマナー展示や、周辺地域の観光情報等も展示している。



① 旬の見どころ紹介ボード



② お知らせコーナー



③ くじゅうの自然写真館



④ 登山のルールとマナー



⑤ 観光情報コーナー

国立公園周辺の見どころ等を、カケスマップ（周辺観光マップ）等を利用して掲示した。



⑥ 展望コーナー

くじゅうに関する情報閲覧および休憩等ができるように、書籍や登山専門誌、ソファ等を設置した。

ビジターセンター1階

・1階は、滞在時間が十分にある来館者が多く、タデ原湿原木道やくじゅう連山登山道につながる出入口となっているため、タデ原やくじゅう連山についての詳しい自然解説内容を展示した。



⑦ ハンズ・オンコーナー

実物に触って試みることが出来るハンズオンコーナー。くじゅうに生息する動物の剥製や、森の香り、植物の実物などを展示した。



⑧ ワークテーブル

来館者参加型の展示。タデ原の生き物や、紅葉、雪の結晶などについて、切り絵などの体験を通して楽しく知ることができるものを展示した。



⑨ くじゅう連山衛星写真

平成27年3月の展示改修により、ジオラマから衛星写真に変更。利用者が上に乗って場所を確認できるほか、登山ルートや見どころ、温泉などはコンピュータで検索ができる。



⑩ くじゅうの植物図録

くじゅうのボランティア団体、九重の自然を守る会が作成した、植物の芽吹きから実までの図録を、職員が季節ごとに入れ替えて展示した。



⑪ タデ原フィールドガイド

今見られる植物や動物などを、楽しみ方の幅を広げる、職員手づくりの解説付きで紹介した。



⑫ キッズコーナー

自然関係の絵本やパズルなどを置き、子どもや親子連れがゆっくり遊べるコーナーにした。

階段

- ・タデ原湿原入口やトイレ利用のための動線となっており、多くの来館者が自然と目にする場所であることから、くじゅうで行われている自然保護などの活動を普及啓発する内容を展示した。



⑬ くじゅうの自然を支える活動

登山道整備や外来種駆除活動など、くじゅう連山で行われた自然保護活動を紹介した。

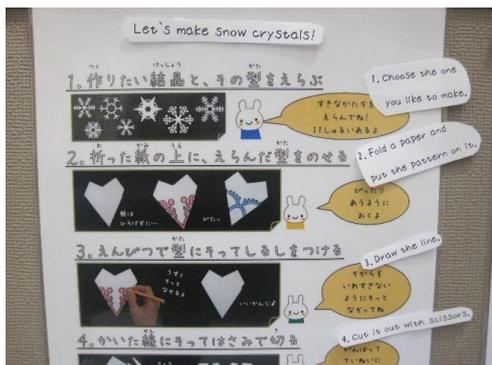


⑭ モニタリングサイト 1000

九重の自然を守る会がタデ原で行っている植物モニタリング調査の様子を紹介した。

展示の国際化対応

- ・一部手づくり展示については、英語での解説を加え、外国人対応に努めた。



② 企画展示

「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原ラムサール条約登録 10 周年！記念展示」

実施期間：平成 27 年 7 月～平成 27 年 9 月



くじゅう坊ガツル・タデ原湿原のラムサール条約登録 10 周年を記念して、湿地の保全や坊ガツル・タデ原湿原の自然や歴史について知ってもらうための展示を行った。夏休み期間に合わせて、子どもたちが楽しめるように、めくって楽しむハンズ・オン展示や、受付カウンターで職員が答え合せをするクイズなどを設置した。クイズでは、館内の常設展示をよく読むと答えがわかるようにすることで、常設展示にも目を向けてもらうよう工夫し、答え合わせ後には、オリジナルシールのプレゼントや、答えの豆知識が書かれた用紙を参加者に手渡した。

クイズ挑戦者は家族連れが多く、親子で熱心に考える姿が見られた。また、夏休みの自由研究のテーマにする子どもも見られた。受付カウンターで答え合わせをすることにより、展示に対する反応が伺え、来館者との会話にも繋がった。

「山の日制定記念展示『くじゅうのやま』」

実施期間：平成 27 年 8 月 11 日～平成 27 年 9 月 30 日



平成 28 年から、8 月 11 日「山の日」が国民の祝日として施行されることを記念して行った展示。ビジターセンター2階に、くじゅう連山の四季の写真を展示し、1階に『「山の日」制定記念祭 in 大分・くじゅう』で大分県が一般募集した、山へのメッセージを展示した。くじゅう連山の季節ごとの写真を展示することで、来館者から「いろんな季節に来てみたい」という声が多く聞かれた。また、「山の日」の制定について、多くの利用者に周知することができた。

「トイレ de 写真館コンテスト記念展示」

実施期間：平成 27 年 10 月～平成 27 年 12 月



平成 27 年度の「トイレ de 写真館コンテスト」に応募された作品すべてを、館内で紹介した写真展。「トイレ de 写真館」では紹介しきれなかった多数の応募作品について、来館者の多い 2 階の動線上に有孔ボードを設置し、展示を行うことで、多くの来館者に見てもらうことができた。また、写真展開催をフェイスブックで広報することにより、写真出展者もビジターセンターを訪れて展示を見に来てくれるなど、来館のきっかけにもなった。

「ニホンジカ」

実施期間：平成 27 年 12 月～平成 28 年 2 月



「大分県いきものウォッチング調査」で、大分県がニホンジカの情報を集めていることを受けて作成した展示。ニホンジカの生態や、食痕、ツノとぎ痕などのシカの痕跡の写真、シカの増加による問題等の解説パネルを展示したほか、シカの頭骨や骨盤などの骨、ツノ、コーティングしたフンなどの実物を、さわられるように展示した。また、くじゅう周辺で得た情報を来館者が気軽に「大分県いきものウォッチング調査」へ情報提供できるように、情報提供 BOX を設置した。

ツノ付きの頭骨や、フンの実物展示は、初めて見たという多くの来館者が興味を示していたほか、外国人利用者も実物をさわりながら展示を見ていた。

③ 自然ふれあい事業

a) タデ原の自然観察会

- ・平成 27 年度の自然観察会開催回数は 57 回（前年度比：9%増）、参加者数は、延べ 723 人。（前年度比：約 7%減）
- ・九重の自然を守る会の会員や、くじゅう地区パークボランティアがボランティアガイドを行う。
- ・今年は、定例の観察会参加人数は例年どおりであった。団体予約の観察会については、実施件数は昨年と同様であったが、1 団体毎の参加人数が少なく、全体の参加者数減少の要因となった。
- ・団体予約は、減少傾向にあることから、今後は、定例の観察会への個人利用者を中心に、参加を呼びかける方法を考えていく必要がある。



自然観察会の様子

表 3. 自然観察会参加者数一覧（平成 25～27 年度）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 累計 |
|--------|----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 平成27年度 | 10 | 101 | 54 | 89 | 159 | 134 | 49 | 58 | 0 | 2 | 3 | 64 | 723 |
| 平成26年度 | 7 | 184 | 64 | 60 | 90 | 106 | 34 | 140 | 0 | 2 | 2 | 87 | 776 |
| 平成25年度 | 35 | 72 | 25 | 136 | 241 | 245 | 149 | 39 | 2 | 2 | 0 | 7 | 953 |

図 4. 自然観察会参加者数推移（平成 25 ～ 27 年度）



表 4. 平成 27 年度自然観察会開催一覧

| 開催日 | 概要 | 参加者数 | 開催日 | 日 | 定例 | 15 | 開催日 | 金 | 怡土公民館 | 45 | |
|-------|----|------------|-----|-------|----|-----------------|-----|--------|-------|--------------|----|
| 4月12日 | 日 | 定例 | 4 | 7月19日 | 日 | 定例 | 15 | 9月25日 | 金 | 怡土公民館 | 45 |
| 4月26日 | 日 | 定例 | 6 | 7月20日 | 月 | 定例 | 10 | 9月27日 | 日 | 定例 | 7 |
| 5月4日 | 月 | 定例 | 20 | 7月26日 | 日 | 定例 | 4 | 9月27日 | 日 | 糸島植物友の会 | 16 |
| 5月5日 | 火 | 定例 | 6 | 7月26日 | 日 | 柏陵高校 | 44 | 10月4日 | 日 | 定例 | 3 |
| 5月6日 | 水 | 定例 | 7 | 8月2日 | 日 | 定例 | 6 | 10月11日 | 日 | 定例 | 14 |
| 5月10日 | 日 | 定例 | 20 | 8月8日 | 土 | 定例 | 2 | 10月12日 | 月 | 定例 | 2 |
| 5月17日 | 日 | 定例 | 3 | 8月9日 | 日 | 定例 | 11 | 10月12日 | 月 | 福岡県生物部会 | 11 |
| 5月21日 | 木 | 健康組合保養所 | 24 | 8月10日 | 月 | 由布市狭間公民館 | 65 | 10月18日 | 日 | 定例 | 9 |
| 5月24日 | 日 | 定例 | 13 | 8月11日 | 火 | 山の日制定イベント記念イベント | 9 | 10月25日 | 日 | 定例 | 10 |
| 5月31日 | 日 | 定例 | 8 | 8月15日 | 土 | 定例 | 16 | 11月1日 | 日 | 定例 | 4 |
| 6月1日 | 月 | 豊後大野市俳句の会 | 12 | 8月16日 | 日 | 定例 | 10 | 11月3日 | 火 | 定例 | 5 |
| 6月2日 | 火 | 筑紫野市団体 | 14 | 8月22日 | 土 | 朝日長者伝説をめぐる会 | 29 | 11月8日 | 日 | 定例 | 2 |
| 6月6日 | 土 | 山陽小野田市グループ | 5 | 8月22日 | 土 | 定例 | 5 | 11月15日 | 日 | 定例 | 9 |
| 6月7日 | 日 | 定例 | 13 | 8月23日 | 日 | 定例 | 2 | 11月23日 | 月 | 定例 | 11 |
| 6月14日 | 日 | 定例 | 2 | 8月29日 | 土 | 定例 | 4 | 11月29日 | 日 | 森地区コミュニティ協議会 | 16 |
| 6月15日 | 月 | 大分合同新聞 | 2 | 9月5日 | 土 | 定例 | 2 | 11月29日 | 日 | 定例 | 11 |
| 6月21日 | 日 | 定例 | 1 | 9月13日 | 日 | 定例 | 19 | 1月10日 | 日 | 定例 | 2 |
| 6月28日 | 日 | 定例 | 5 | 9月20日 | 日 | 定例 | 16 | 2月14日 | 日 | 定例 | 3 |
| 7月5日 | 日 | 定例 | 7 | 9月21日 | 月 | 定例 | 8 | 3月6日 | 日 | 久留米市団体 | 48 |
| 7月12日 | 日 | 定例 | 9 | 9月22日 | 火 | 定例 | 19 | 3月20日 | 日 | 定例 | 2 |
| | | | | 9月23日 | 水 | 定例 | 2 | 3月21日 | 月 | 定例 | 14 |
| 合計 | | | | | | | | | | 723 | |

b) 自然解説員（インタープリター）利用事業

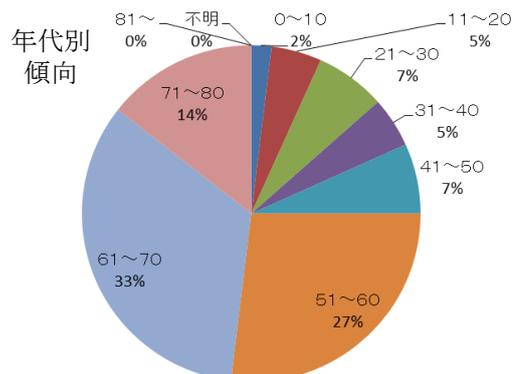
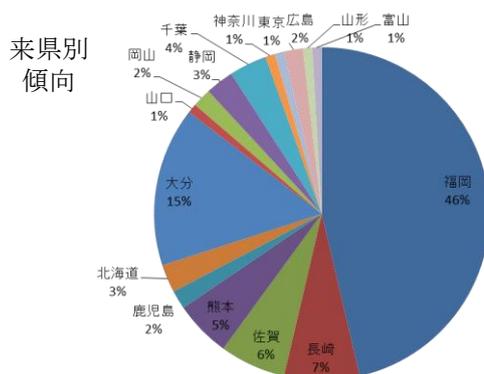
タデ原のミニガイドウォーク

- ・ビジターセンター職員がタデ原を 30 分で案内するミニガイドウォーク。参加費は 100 円。ビジターセンター開館日の毎日 11：00～と 14：00～の 2 回開催。
- ・平成 27 年度のミニガイドウォークの利用者は、延べ 119 名（前年度比 22%減）。
- ・利用者に対して職員が直接タデ原の自然を伝えられる機会となっている事業であることから、今後も、利用者に対しより効果的なインタープリテーションの機会となるような方法を検討したい。



ミニガイドウォークの様子

■参加者の傾向



阿蘇くじゅう国立公園に関するインタープリテーション

- ・学校や団体に対し、ビジターセンター職員が国立公園やタデ原について解説を行っているもの。参加人数等に応じて、30分～2時間程度のレクチャーやタデ原の案内を行っている。
- ・平成27年度の受け入れ回数は10回、利用者は、延べ706人。
- ・今年度は、小中高の学校団体受け入れのほか、企業のCSR事業のレクチャー受け入れも行った。
- ・職員による英語でのタデ原レクチャーや、韓国からの団体に対して、韓国語でのスライド解説を行うなど（計4回）、外国語対応が可能な職員による外国語でのレクチャー受け入れに努めた。



九重町立緑葉中学校レクチャー



イオンチアーズクラブレクチャー



英語でのタデ原レクチャー



韓国語でのスライド解説・レクチャー

表5. 平成27年度 阿蘇くじゅう国立公園に関するインタープリテーション一覧

| 開催日 | | 概要 | 参加者数 |
|--------|---|------------------------------|------|
| 4月21日 | 火 | 中津南高校 国立公園レクチャー | 200 |
| 6月22日 | 月 | 由布院中学校 国立公園レクチャー | 60 |
| 7月7日 | 火 | 九重町立緑陽中学校 国立公園レクチャー | 80 |
| 7月7日 | 火 | 韓国環境保護団体 国立公園レクチャー(韓国語) | 17 |
| 7月31日 | 金 | ランゲージスクール 国立公園レクチャー(英語) | 75 |
| 8月7日 | 金 | イオンチアーズクラブ 国立公園レクチャー・タデ原湿原散策 | 14 |
| 8月10日 | 月 | 小倉高校 自然解説方法レクチャー | 12 |
| 9月17日 | 木 | 原川中学校 国立公園レクチャー | 150 |
| 11月1日 | 日 | 韓国東新大学 国立公園レクチャー(韓国語) | 18 |
| 11月17日 | 火 | 韓国科学連盟 国立公園レクチャー(韓国語) | 80 |

c) 視察研修対応

- ・ビジターセンター周辺の民間施設の職員研修や、行政機関関係者の視察等の受け入れを随時行い、ビジターセンター職員が、館内展示や阿蘇くじゅう国立公園、タデ原の自然環境などについて解説を行った。
- ・平成 27 年度の受け入れ回数は 13 回、利用者数はのべ 52 人。



佐世保市議会議員視察研修



九重星生ホテル視察研修

表 6. 平成 27 年度視察研修受け入れ事業一覧

| 開催日 | 実施内容 | 参加者数 |
|----------|---------------------|------|
| 4月28日 火 | 九重星生ホテル 視察研修 | 2 |
| 6月29日 月 | 九重星生ホテル 視察研修 | 3 |
| 7月6日 月 | 法華院温泉別館花山酔 視察研修 | 1 |
| 7月9日 木 | 法華院温泉別館花山酔 視察研修 | 1 |
| 8月31日 月 | 法華院温泉別館花山酔 視察研修 | 1 |
| 9月3日 木 | 法華院温泉別館花山酔 視察研修 | 1 |
| 10月16日 金 | 佐世保市議会議員 視察研修 | 11 |
| 11月29日 日 | 森地区コミュニティ運営協議会 視察研修 | 16 |
| 12月28日 月 | 宇久井ビジターセンター 視察研修 | 6 |
| 1月20日 水 | 九重星生ホテル 視察研修 | 2 |
| 1月25日 月 | 九重星生ホテル 視察研修 | 4 |
| 2月5日 金 | 丹青社 視察 | 3 |
| 2月13日 土 | 界阿蘇 樹木調査研修 | 1 |

④ 館内維持管理業務

- ・ビジターセンター館内は、閉館後にゴミ拾い、床のモップがけ、館内トイレ清掃を毎日実施した。
- ・年 1 回、清掃業者による特別清掃（カーペットクリーニング、ワックスがけ等）を実施した。



日常清掃の様子



特別清掃の様子

II. 教育・普及啓発活動

1. 普及啓発活動

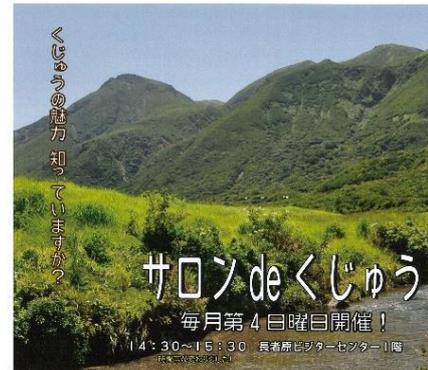
(1) 各種イベント

サロン de くじゅう

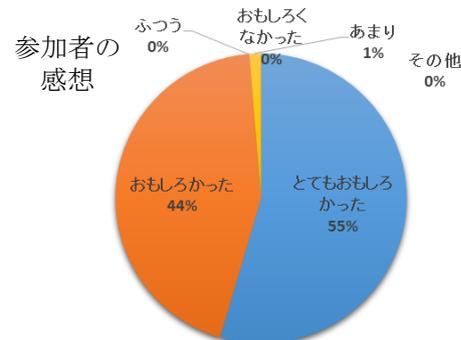
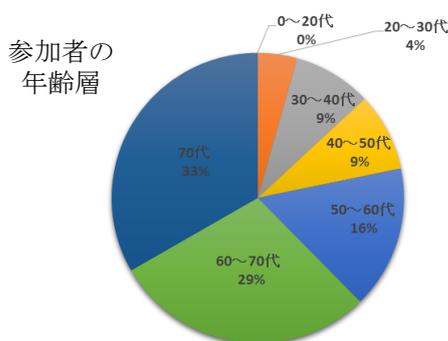
開催日時：5～10月の毎月第4日曜日 14：30～16：00

場所：長者原ビジターセンター1階オープンスペース

- ・くじゅうの自然に関わる様々な分野のゲストを招き、館内1階のオープンスペースで講演を行った。
- ・講演回数は6回、参加者数は延べ96人。
- ・昨年の利用者の傾向から、スタート時間を1時間遅らせた。参加者には、リピーターが多く見られたが、昨年に比べると参加者が減少傾向にあるため、開催方法等について再考する必要がある。



■アンケート結果



サロン de くじゅうの様子

表 7. 「サロン de くじゅう」開催内容一覧

| 開催日 | 演目 | 講演者 | 参加者数 |
|--------|-----------------------------------|--------------------------|------|
| 5月24日 | 野と山の環境歴史学～くじゅう・阿蘇を中心として～ | 長者原ビジターセンター 種村英大 | 17 |
| 6月28日 | 登山のキホン 初級編～地形図を読み、登山計画を立てて山に行こう！～ | くじゅうネイチャーガイドクラブ 増田啓次 | 17 |
| 7月26日 | 山の水、海の水 | おおいた水フォーラム 川野田實夫 | 17 |
| 8月23日 | 森の香りは癒しの香り。～森林浴とアロマテラピーの関係とは？～ | アロマテラピーインストラクター 石川さやみ | 10 |
| 9月27日 | イナカガラスの木工 | 木工工房grow 後藤文生 | 10 |
| 10月25日 | くじゅうの自然と有機農業 | 玖珠九重有機農業グループ「ひこぼえ」 佐藤進太郎 | 25 |

トイレ de 写真館コンテスト

募集期間：平成 27 年 6 月 1 日～平成 27 年 8 月 31 日

展示期間：平成 27 年 10 月 1 日～現在

- ・平成 25 年度から「トイレ de 写真館」を開始し、くじゅう連山の美しい風景等の写真を公衆トイレに展示することで、トイレ利用者の意識向上を図っている。
- ・今年度は昨年度に引き続き、展示写真の公募を行った。今年の応募数は 57 点。審査を行い、3 点の入選作品と優秀作品 6 点をトイレ de 写真館に展示した。
- ・入選者には、記念品を贈呈した。
- ・今年度は、例年に比べ出展者が多く、素敵な作品が多数集まったことから、ビジターセンター館内の企画展として、すべての応募作品を紹介・展示した。



トイレ de 写真館展示の様子



トイレ de 写真館外観

「山の日」制定記念祭 in 大分・くじゅう (イベントブース出展)

開催日時：平成 27 年 8 月 11 日 (火) 10:30～15:00

場所：長者原園地

- ・長者原で開催された「山の日」制定の記念イベント(主催：大分県・九重町・竹田市)に出展し、坊ガツル・タデ原湿原のラムサール条約登録 10 周年を記念したクイズや、KODOMO ラムサール(くじゅう坊ガツル・タデ原湿原)についてのパネル展示、顔はめパネルやジェットシューター体験などの体験型パネルの展示を行った。
- ・展示ブースを訪れた子供たちの多くが、クイズやジェットシューター体験を楽しんでいた。



ビジターセンター展示ブースの様子



ジェットシューター体験の様子

牧ノ戸峠 登山ミニレクチャー

- ・公園利用者への適切な利用促進の一環として、くじゅう連山最大の登山口として利用されている、牧ノ戸峠登山口において、「登山ミニレクチャー」を実施し、登山者に対する公園利用マナーの普及啓発を行った。また、登山届の提出もあわせて呼びかけ、登山届の書き方等の指導を行った。
- ・平成 27 年度は、ミヤマキリシマ繁忙期（5・6 月各 1 回）、紅葉繁忙期（10 月 2 回）の計 4 回実施した。
- ・ビジターセンター職員のほか、環境省くじゅう自然保護官事務所、大分西部森林管理署、玖珠警察署、大分県、九重町、九重ふるさと自然学校、くじゅうネイチャーガイドクラブ等の協力があり、毎回 4～7 名体制で呼びかけを行うことができた。
- ・登山届提出を呼びかけることにより、登山計画の不備や、登山地図・ストックキャップ等の準備不足などについてアドバイスをすることができ、安全・適切な登山マナーの認識の向上につながっている。



レクチャーの様子

表 8. 平成 27 年度 牧ノ戸峠登山口 登山届提出数（玖珠警察署提供）

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 216 | 176 | 144 | 238 | 663 | 1160 | 213 | 462 | 409 | 846 | 506 | 113 |

※登山ミニレクチャーは 5・6・10 月に実施

(2) 広報活動

① メディア関係

平成 27 年度出演回数：1 回

11 月 8 日（日） OBS ラジオ「おーい！タタタ！」

② 長者原ビジターセンター ブログ

平成 27 年度更新回数：6 回

| 更新日 | 内容 |
|-------|------------------------------------|
| 6月8日 | 今年のミヤマキリシマは |
| 7月21日 | KODOMOラムサールくじゅう坊ガツル・タデ原湿原を開催しました！① |
| 7月21日 | KODOMOラムサールくじゅう坊ガツル・タデ原湿原を開催しました！② |
| 7月21日 | KODOMOラムサールくじゅう坊ガツル・タデ原湿原を開催しました！③ |
| 7月21日 | KODOMOラムサールくじゅう坊ガツル・タデ原湿原を開催しました！④ |
| 10月3日 | 第3回トイレde写真館結果発表！ |

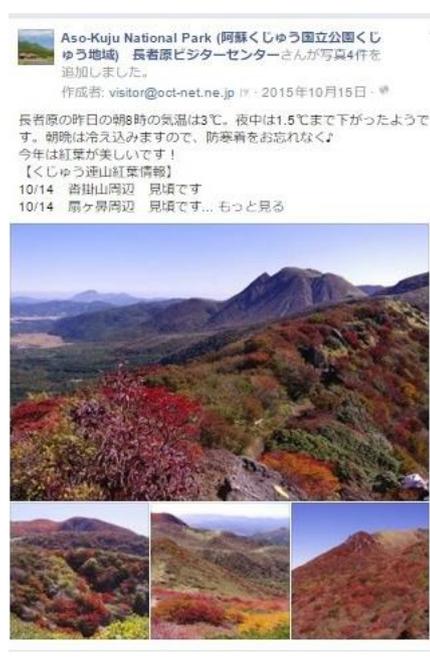


ブログ掲載の様子

③ 長者原ビジターセンター フェイスブック

平成 27 年度更新回数：108 回

- ・ ページの購読者（「いいね！」の数）は 2,292 人（昨年度より 815 人増）。購読者数は、全国のビジターセンターのフェイスブックページの中でトップクラス。最新の自然情報をリアルタイムに提供できるよう努めたことにより、購読者が増加している。
- ・ 外国人利用者に向けた情報発信として、投稿記事について英語表記を行ったことにより、外国人からの反応も見られた。



フェイスブック掲載の様子

2. 環境教育活動

ラムサール条約登録10周年記念事業 「KODOMO ラムサールくじゅう坊ガツル・タデ原湿原」

・平成27年度は、くじゅう坊ガツル・タデ原湿原がラムサール条約に登録されて10周年の記念すべき年であり、九州沖縄地方の4湿地も同時に10周年を迎えることから、九州沖縄の湿地保全における地域間協働を進める契機とするため、九州初のKODOMOラムサールを、「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」で開催した。KODOMOラムサールは、ラムサールセンター（東京）が主宰し、全国のラムサール条約湿地で進めている、子どもたちの環境教育・交流事業であり、これまでに19湿地で27回、1,300人の子どもが参加して大きな成果をあげてきたプログラムである。

【開催概要】

主催：KODOMOラムサール実行委員会

（くじゅう地区管理運営協議会、ラムサールセンター及び日本国際湿地保全連合で構成）

後援：環境省九州地方環境事務所、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議、荒尾市、薩摩川内市、屋久島町、那覇市、石垣市、竹田市、九重町、九重町教育委員会

協力：飯田地区まちづくり協議会、積水化学工業株式会社、ユースラムサールジャパン

開催日時：平成27年7月18日（土）～7月20日（月）

参加者数：16名



坊ガツルの歴史について話を聞く様子



タデ原でヒゴタイの解説を受ける様子



ジェットシューター体験



KODOMO 会議の様子



公開 KODOMO 会議の様子



九重町・竹田市へ、くじゅうのお宝ポスターの贈呈

KODOMO ラムサール継続事業「チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～」

- ・KODOMO ラムサールに参加した、地元の飯田小学校の子どもを中心に、振り返り会議を行ったところ、これからタデ原を中心に地域の自然を守っていきたいという意見があったため、活動グループ「チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～」を結成した（平成27年11月25日）。
- ・メンバーは、飯田小学校3～6年生（現在9名）。子どもが主体となった活動グループを目標とし、今後の活動は、基本的には子どもたちが内容を決め、大人はサポートする体制で活動していく。
- ・平成27年12月から8回ほど放課後の時間を利用して集まり、平成28年3月13日に行われた飯田地区公民館祭りで、KODOMO ラムサール開催報告とチームタデ原の結成発表を行ったほか、タデ原に関する展示物を作成し、展示した。
- ・平成28年3月27日に、草原の維持活動として行われているタデ原の野焼きを見学した。当日は、見学するだけでなく、子どもたちの目線から写真撮影してもらった。また、野焼き後のタデ原をジェットシューターを背負って燃え残りが残っていないか確認する体験を行った。



飯田公民館祭りに向けての準備の様子



飯田公民館祭り ステージ発表の様子



飯田公民館祭り 展示ブースの様子



野焼き見学の様子



見学後ジェットシューター体験の様子

出前授業

・九重町の准園小学校の4年生（7名）に対し、くじゅう周辺の自然の魅力と自然環境保全の大切さについて、出前授業を行った。シカのツノやヘビの抜け殻などをさわって当てるゲームや、ジェットシューター体験をするなど、楽しみながら学べる授業を行った。



授業の様子



授業で学んだことをまとめたポスターを、ビジターセンターで展示・紹介

飯田高原お宝探検隊との活動

・飯田公民館及び飯田地区青少年健全育成協議会主催の「飯田高原お宝探検隊」の活動実施に、運営委員として協力した。（詳細は「平成27年度飯田高原お宝探検隊活動報告書」を参照）



「豊後渡で川あそび」の様子



「もぐらうちは～奥郷ダヨ～」の様子

表9. 平成27年度 飯田高原お宝探検隊活動一覧

| 開催日 | 概要 | 参加者数 |
|----------|-------------------|------|
| 5月9日 土 | 一目山、泉水山ろくでデイキャンプ！ | 16 |
| 8月3日 月 | 豊後渡で川あそび | 15 |
| 9月26日 土 | あげたへえ～さげたへえ～須久保地区 | 14 |
| 12月25日 金 | もぐらうちづくり | 12 |
| 1月16日 土 | もぐらうちは～奥郷ダヨ～ | 9 |

Ⅲ. 自然環境保全・調査活動

1. 自然環境保全活動

- ・飯田高原野焼き実行委員会、九重の自然を守る会、飯田地区まちづくり協議会等に随時協力し、野焼き活動、防火線切り、外来種駆除活動等を行なった。



野焼き活動の様子



オオハンゴンソウ駆除活動の様子

表 10. 平成 27 年度自然環境保全活動一覧

| 実施日 | | 概要 |
|-------|---|------------------------------|
| 4月18日 | 土 | 泉水山・タデ原野焼き(飯田高原野焼き実行委員会主催) |
| 5月1日 | 金 | 野焼き後の焼け残り処理 |
| 5月2日 | 土 | 野焼き後の焼け残り処理 |
| 5月23日 | 土 | 牧ノ戸清掃登山(九州電力八丁原発電所主催) |
| 6月28日 | 日 | オオハンゴンソウ駆除活動(九重ふるさと自然学校主催) |
| 7月5日 | 日 | オオハンゴンソウ駆除活動(飯田地区まちづくり協議会主催) |
| 7月12日 | 日 | オオハンゴンソウ駆除活動(九重の自然を守る会主催) |
| 9月19日 | 土 | オオハンゴンソウ花芽摘み |
| 10月4日 | 日 | オオハンゴンソウ駆除活動(九重の自然を守る会主催) |
| 3月27日 | 日 | タデ原野焼き(飯田高原野焼き実行委員会主催) |

2. 調査活動

(1) モニタリングサイト 1000 里地調査

- ・環境省の「モニタリングサイト 1000 里地調査 植物相」にタデ原を登録し（調査主体：九重の自然を守る会）、平成 25 年度～平成 29 年度（5 年間）まで継続して調査を行う。平成 27 年度の調査実施回数は 9 回（3～11 月に毎月 1 回実施）。
- ・調査の事務局はビジターセンター職員が行い、調査の前後には毎回、職員によるレクチャーを行った。また、調査の様子を館内に展示することで、一般利用者にも活動内容を知ってもらうように努めた。
- ・タデ原調査地でのモニタリング種数は 223 種^(※)であり、そのうち環境省レッドデータ掲載種は 16 種、大分県レッドデータ掲載種は 34 種（ヒメユリ、ヒゴタイ、サクラソウ、キスミレ等）、特定外来生物は 1 種（オオハンゴンソウ）であった。（※）イネ科、カヤツリグサ科、イグサ科を除く種子植物種数



モニタリングサイト 1000 調査の様子

(2) 九重町における生物多様性地域戦略づくりへの協力

- ・九重町生物多様性保全対策協議会に委員として参加し、生物多様性地域戦略づくりに参画した。
- ・主に植物関係の文献調査や、九重町の自然環境の聞き取り調査（計 19 回）およびデータのまとめ、地域での生物多様性に関するワークショップの実施等に協力した。



聞き取り調査の様子



生物多様性ワークショップの様子

IV. 登山道等管理活動

1. 登山道保全活動

- ・三俣山遭難対策として、大分西部森林管理署と協力し、本峰・南峰分岐点のロープ張りをを行った。
- ・玖珠美山高校3年生の卒業記念として、九重の自然を守る会やくじゅうネイチャーガイドクラブ等と協力し、坊原の登山道保全整備活動を行った。
- ・登山道の老朽化している道標について、新たに3基（赤川・久住山分岐、中岳・天狗ヶ城分岐、三俣山本峰・南峰分岐）の補修・交換を行った。



三俣山遭難対策ロープ張りの様子



玖珠美山高校3年生との登山道保全整備活動の様子

表 11. 平成 27 年度自然環境保全活動一覧

| 実施日 | | 概要 |
|--------|---|---------------------------|
| 5月23日 | 土 | 牧ノ戸清掃登山(九州電力八丁原発電所主催) |
| 5月31日 | 日 | 三俣山登山道ロープ張り(大分西部森林管理署と共同) |
| 6月6日 | 土 | 登山道遭難対策ペンキ塗り(九重の自然を守る会主催) |
| 11月6日 | 日 | 玖珠美山高校との登山道保全整備活動 |
| 11月29日 | 日 | 平治岳一人一石運動(九重の自然を守る会主催) |

2. 長者原周辺の美化清掃活動

(1) 清掃業務

- ・長者原公衆トイレについて、職員による日常清掃をより強化して行うとともに、昨年に引き続きトイレ清掃ボランティア（金・土・日・月・祝日の週4回程度）を入れ、常に清潔なトイレが保たれるよう努めた。また、消臭剤を各便器に設置するなど、悪臭の改善に努めた。
- ・年1回、清掃業者による特別清掃（便器のやすりがけ、スケールの除去等）を実施した。



公衆トイレ清掃の様子



公衆トイレ特別清掃の様子

(2) 園地管理業務等

- ・長者原園地及びその周辺においては、ゴミ拾い等清掃の他、管理者である環境省等による維持管理を補助する形で、駐車場の植栽の剪定や草取り、芝刈り作業を随時実施した。また、タデ原の自然歩道脇の草刈りを随時実施した。
- ・牧ノ戸峠駐車場および登山口においても、随時ゴミ拾いを行った。



園地管理業務の様子

(3) タデ原湿原木道の保守業務

- ・3月末に実施されるタデ原の野焼きに備え、タデ原湿原木道が延焼しないよう、野焼きの実施前に木道の周囲の防火線切りを行った。



防火線切りの様子



草集めの様子

V. その他

1. 職員研修実績

(1) モニタリングサイト 1000 地方交流会・大分

開催日時：平成 27 年 10 月 3 日(日) 参加者：村松、山下

概要：日本自然保護協会（NACS-J）が主催する、モニタリングサイト 1000 の地方交流会に参加したもの。タデ原での調査結果を発表したほか、県内の他サイトの調査員と情報共有および交流を行った。



各サイトの発表の様子



ワークショップの様子

(2) ファシリテーション基礎講座

開催日時：平成 27 年 10 月 17 日(土) 参加者：種村

概要：NPO 法人ファシリテーション協会が主催する、「ファシリテーション基礎講座」に参加したもの。会議や教育現場での話し合いの場のデザイン方法や進行スキルについて学んだ。

(3) 第 508 回 NACS-J 自然観察指導員講習会・熊本県

開催日時：平成 27 年 11 月 14 日(土)～15 日(日) 参加者：山下

概要：日本自然保護協会（NACS-J）が主催する、自然観察指導員講習会に参加し、2 日にわたって、自然解説に関する野外実習および講義を受講した。



講義の様子



野外実習の様子

(3) 第5回大分自然環境研究発表会

開催日時：平成27年12月19日(土) 参加者：村松

概要：大分県内各地の個人や団体による、自然環境の研究や保全活動に関する発表会。各地の取組や研究の他、県内の希少種の状況について学んだ。

(4) 甲種防火管理新規講習

開催日時：平成28年1月20日(水)～21日(木) 参加者：種村

概要：平成28年度から、ビジターセンター管理運営上、防火管理者を設置することが定められることから、甲種防火管理新規講習を受講した。

(5) 第12回九州環境市民フォーラム in かごしま

開催日時：平成28年1月23日(土)～24日(日) 参加者：鳥越、山下

概要：九州の各環境市民活動団体等の抱える問題を共有し、課題解決を図るフォーラム。今回のフォーラムは、「協働」がテーマであり、地域協働で進める環境教育や森林保全について学んだ。



ワークショップの様子



各分科会発表の様子

(6) 北広島町生物多様性地域戦略づくり研修

開催日時：平成28年2月23日(火)～24日(水) 参加者：種村、村松

概要：委員として参加している、九重町生物多様性保全対策協議会の先進地研修に参加したもの。生物多様性地域戦略づくりの先進地である北広島町において、戦略策定のプロセスやその効果、戦略策定後の取組みなどについて学んだ。



戦略策定についての研修の様子



里山再生事業「薪活」の視察

(7) 九州環境教育ミーティング in 久住高原

開催日時：平成 28 年 3 月 5 日(土)～6 日(日) 参加者：鳥越・山下

概要：九州内で環境教育等に携わる団体や個人が集まるネットワーク会議。「九州の大地から未来をつくる」というテーマで、ジオパーク・エコパークのブランド力の活かし方等について学んだ。



ワークショップの様子



各分科会発表の様子

(8) 九州地区ビジターセンター意見交換会

開催日時：平成 28 年 3 月 14 日(月) 参加者：種村

概要：九州地区のビジターセンター担当者が集まり、運営や行事の実施方法等についての意見交換および交流を行った。



意見交換会の様子



各ビジターセンターの発表の様子

2. 新聞掲載記事



レクチャー開き
登山マナー向上
あすまで九重町で

九重町牧ノ戸峠登山口で3日、登山客にマナー向上などを呼び掛ける「牧ノ戸峠登山ミニレクチャー」が始まった。長者原ビジターセンターを運営するくじゅう地区管理運営協議会の主催。5日まで。

同センターの鳥越遥自然解説員(25)が登山届の書き方を指導し、必需品などを確認。「霧で道に迷うことがある。地図は必ず持って行ってください」などと登山客に話し掛けていた。くじゅう連山は登山初心者も多く、登山計画が十分なものが目立つという。そのため昨年からミニレクチャーを開催し、計画の立て方などを呼び掛けてきた。種村英大センター長(33)は「御嶽山噴火以降、防災意識は高まっている。ルールやマナーをしっかり把握して山を楽しんでほしい」と話していた。

登山届の書き方を教える鳥越遥自然解説員(左)＝3日、九重町牧ノ戸

大分合同新聞 (朝刊)
平成 27年 5月 4日 (月)



キラリまわす

九重町の長者原ビジターセンターはくじゅう連山の魅力発信や登山マナーの啓発活動の拠点になっている。自然解説員の村松優子さん(30)の顔写真

真もスタツフの一人。「よさが素晴らしい」とPR。趣味。「本当にここに来て良かったと思う」

九重の自然を

名古屋市出身。兵庫県の

九重町の長者原ビジターセンターはくじゅう連山の魅力発信や登山マナーの啓発活動の拠点になっている。自然解説員の村松優子さん(30)の顔写真

今の仕事に就いた。見せる。

「くじゅう連山のエリアは天然の高原と自然の豊かな夕テ原湿原を歩くのがさく素晴らしい」とPR。趣味。「本当にここに来て良かったと思う」

祖父の家を訪れるたびに・夕テ原湿原のラムサール条約登録10周年記念イベント、8月11日には山の日イベントを控えており、現在準備で多忙な日々を送る。それでも「自然を守ることが仕事。意義を登山者一人一人にしっかりと伝えて、もっと広めていきたい」と笑顔を見せる。

祖父母の家を訪れるたびに・夕テ原湿原のラムサール条約登録10周年記念イベント、8月11日には山の日イベントを控えており、現在準備で多忙な日々を送る。それでも「自然を守ることが仕事。意義を登山者一人一人にしっかりと伝えて、もっと広めていきたい」と笑顔を見せる。

自然守る意義 広めたい

大分合同新聞 (朝刊)
平成 27年 7月 8日 (水)



長者原のトイレに飾られている昨年の入賞作品

トイレde写真館
参加作品を募集

長者原ビジターセンターは「トイレde写真館コンテスト」の参加者を募集している。締め切りは8月31日。

阿蘇くじゅう国立公園利用者に公園内をきれいに使ってもらおう美化意識の向上が目的。回目。

今回の写真のテーマは「私の好きなくじゅう」。国立公園のくじゅう地域で撮影したものであれば何でもよい。携帯電話のカメラ機能も可。カラー、白黒は問わない。応募は一人3点まで。

応募方法はメールに住所、氏名、電話番号、連絡の取れるメールアドレス、公表名、写真のタイトルを記載し、写真を添付して同センター (gyolabarumi.sitor@yahoo.co.jp) にメール送信する。

入賞作品は10月から来年9月まで長者原地区のトイレ2カ所に展示する。問い合わせは同センター (☎0973・79・2154) へ。

大分合同新聞 (朝刊)
平成 27 年 7 月 8 日 (水)



くじゅう坊ガツル・タテ原湿原のお宝ランキングのポスターを完成させた参加者ら=20日、九重町田野の県立社会教育総合センター九重青少年の家

湿原の未来は僕らが守る!

九重や竹田で「KODOMOラムサール」

九重町・タテ原湿原と竹田市・坊ガツル湿原のラムサール条約登録10周年記念事業「KODOMOラムサール」が18、19日、両湿原などであった。環境を守る次世代のリーダー育成などを目的に2011年から国内外で毎年開いている。九州の登録湿地では初めての開催。

くじゅう地区管理運営協議会などをつくる実行委員会が主催した。大分や宮城など5県の小学5、6年16人が参加。18、19日は地元の話聞いた坊ガツルなどでフィールドワークをして学習した。

環境の大切さ考える

・食・住の文化」自然を守って「動物」のランキング6項目を描いたポスターを作り、坂本和昭九重町長、野田良輔竹田市副市長らに手渡した。

参加した井川陸君 (11) 竹田市城原小 5年・顔

写真1は「湿原には綺麗な花や鳥がいること、野焼きの大切さを勉強してきた。僕たちがこの自然を守り、未来へつなげていきたい」と話していた。

(白石宗史)

大分合同新聞 (朝刊)
平成 27 年 7 月 21 日 (火)



山に大自然に感謝

来夏、新たな国民の祝日として加わる「山の日」（8月11日）を祝う制定記念祭が九重町田野の長者原園地などで開かれた。式典で歌手の芹洋子さん（前列中央）と地元の合唱グループが「坊がつる讃歌」を披露した＝11日午前、九重町田野、撮影・三橋孝夫（11面に関連記事）

「山の日」制定祝い合唱

九重町、竹田市などが記念祭

来夏、新たな国民の祝日として加わる「山の日」（8月11日）を祝う制定記念祭が11日、九重町田野の長者原園地などであった。

県、竹田市、九重町が主催。同所で式典があり、関係者約300人が参加した。

主催者を代表して広瀬勝貞知事が「山に感謝し、山を守るため一人一人ができることをやっています」とあいさつ。谷垣禎一全国「山の日」協議会長、超党派「山の日」議員連盟の衛藤征士郎会長、田中利

除幕された「坊がつる讃歌」の歌碑＝11日午前、九重町長者原、撮影・三橋孝夫

明県議会議長が祝辞を述べた。「坊がつる讃歌」「山は心ふるさと」を記念合唱。九重町、竹田市の小学生が「大分の山を守り育て、次の世代に伝えていきます」と、おおいた山の日を宣言した。

式典に先立ち、長者原ヘルスセンター横に建立した「坊がつる讃歌」の歌碑を除幕。歌手の芹洋子さん（豊の国かほす特命大使）が歌を披露した。その他、2本のつえを使った「ノルディックウォーキング」や「オルレ」（韓国発祥の山歩き）、自然観察会などの関連イベントもあり、多くの人が山や自然に親しんだ。

昨年5月に「山の日」を定めた改正祝日法が成立。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」日と定めている。改正は2005年以來で国民の祝日は年間16日となる。

大分合同新聞（夕刊）
平成27年8月11日（火）



登山届の書き方などを説明

マナーの向上を 登山者へ呼び掛け

九重町で説明会

九重町の環境省長者原じじターセンターを運営するくじゅう地区管理運営協議会は24日、くじゅう連山の牧ノ戸峠登山口で登山者にマナー向上などを呼び掛ける「登山ミニレクチャー」を開いた。

種村英大センター長(33)や町職員、玖珠署員らが参加。防寒着の携帯や早めの下山、遭難に備えて登山届を提出することの大切さを

訴えた。登山者は登山届に名前や住所、登山計画などを記入後、紅葉が見頃のくじゅう連山の山々に向かっていった。

大分合同新聞（朝刊）

平成 27 年 10 月 27 日（火）

登山道整備「貴重な体験」

玖珠美山高の農業系学科3年生



登山道に木材を打ち込む玖珠美山高の生徒。九重町のくじゅう連山

玖珠町の玖珠美山高校（近藤宣彦校長）の農業系学科3年生32人が6日、くじゅう連山の登山道を整備した。卒業記念の一環で前身の玖珠農業高校時代を含めて3回目。生徒は木材やスコップを背負って山に入り、修復作業に汗を流した。

くじゅう山 石を敷き歩きやすく

九重町の環境省長者原じじターセンターで出発式。同省くじゅう自然保護官 指導したのは九重の自然事務所の中村仁自然保護官(35)が「安全に注意しながら作業をお願いしま

ながら作業をお願いしましなす」、同校農場主任の河津文昭教諭(57)が「3年間学んできたことを生かし登った後、三俣山へ続く登山道約200mを整備した。生徒は傾斜の厳しい箇所や歩きづらい部分に木材を打ち込み、土のうや石を敷き詰めた。登山道を適切に維持管理することで、登山者がルート以外を歩いて道幅を広げたり、希少な植物を傷つけるのを防ぐ効果があるという。



中村自然保護官は「地域の人で登山道を守るのは素晴らしいこと。若いエネルギーで私たちも元気になる」と話した。参加した食品化学科の佐藤侑也君(18)は「大自然の中で貴重な体験となった。大変な作業だったが楽しかった」と話していた。

(白石宗史)

大分合同新聞（朝刊）

平成 27 年 11 月 11 日（水）

タデ原湿原の自然を守ろうと
結成された「チームタデ原」の
メンバー



九重町・飯田小児童が、湿地保全などを
定めたラムサール条約に登録された同町の
タデ原湿原の自然を守ろうと「チームタデ
原」を結成。13日に開催される「飯田高原
文化祭」で活動発表する。昨年夏にあった
同条約登録10周年を記念したイベント「K
ODOMOラムサール」をきっかけに結成
したもので、子どもたちは「地域の宝物の
タデ原湿原を大切にしていきたい」と張り
切っている。

「KODOMOラムサール」は、同条約
の普及活動に取り組むNGOが中心となり
同町で開催し、県内外の小学生在が参加した。
同町や長者原ヒジャーセンターが、参加し
た同小の児童に呼び掛けて、昨年11月に会
合を開いた際、子どもたちから「タデ原湿
原を守るため何かしたい」と声上がり結

地域の宝、湿原を守る 飯田小児童が「チームタデ原」

九重町

成した。

「チームタデ原」は同小の3年から6年
までの女兒9人。タデ原湿原の自然観察を
したほか、週1回集まり同文化祭で展示す
るポスター製作などに取り組んできた。今
後は同湿原の野焼き見学なども行うとい
う。

同小5年、手崎結衣さん(11)は「タデ原
湿原は山の景色もきれいで好きな場所。も
っと多くの人に素晴らしさを知ってほし
い」と元気いっぱい。世話役の同センター
自然解説員鳥越遥さん(26)は「自然を守り
たいという子どもたちの気持ちを大切にして活
動したい」と話している。

飯田高原文化祭は13日午前10時から同町
田野、旧飯田中学校体育館で。問い合わせ
は飯田公民館 0973(79)2251。

3. 地域の概要

阿蘇くじゅう国立公園は、九州のほぼ中央に位置し、周囲約 100km に及ぶ世界最大級の阿蘇のカルデラ地形と、その北東部に連なるくじゅう火山群、由布岳、鶴見岳からなる、火山地形と草原景観が特徴的な国立公園である。その中でも、くじゅう地域は「九州の屋根」とも呼ばれ、1700 m 級の山々が連なり、初夏はミヤマキリシマの花、秋は紅葉で山々が彩られる。また、山間の坊ガツル湿原・タデ原湿原は、国際的に重要な湿地として、ラムサール条約に登録されている。山麓の飯田高原・久住高原などの広大な高原と並び、湿地性・草原性の多様な草花や野鳥・昆虫など、多くの動植物でにぎわう場所となっている。

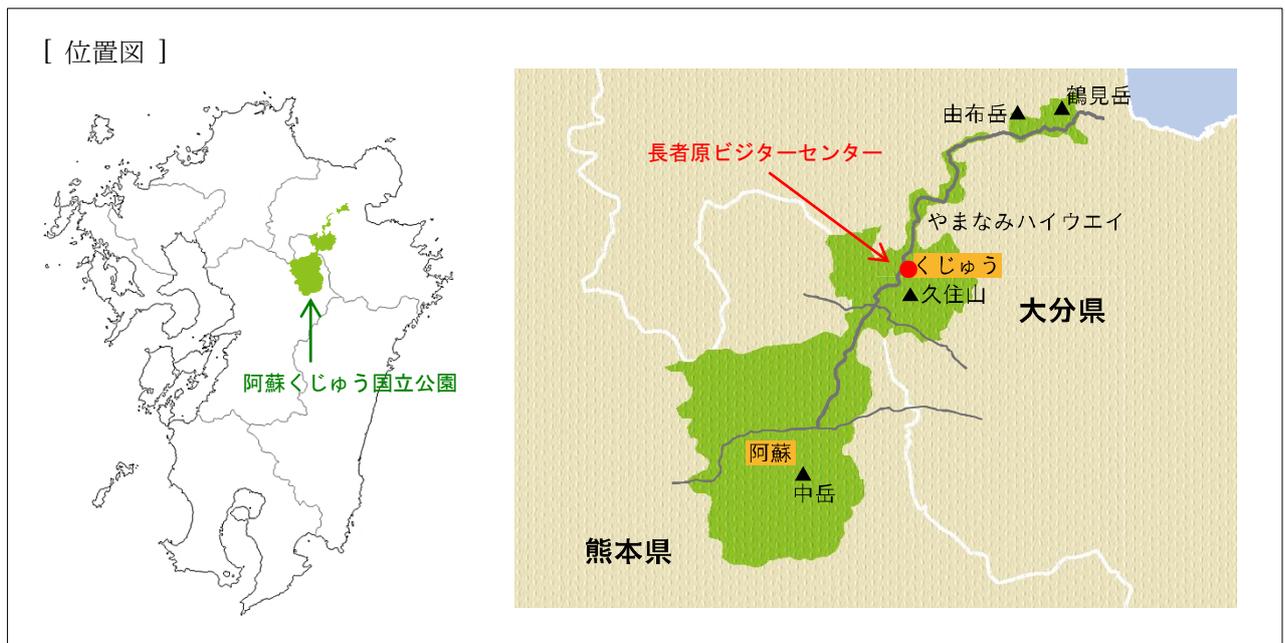
長者原ビジターセンターは、通称「やまなみハイウェイ」と呼ばれる、阿蘇と別府をつなぐ県道 11 号線沿いの大分県九重町長者原地区にあり、くじゅう地域の拠点施設として利用されている。センターの裏側には、タデ原湿原が広がり、設置された木道からは、四季折々の自然を肌で感じることができる。



くじゅう連山（ミヤマキリシマ開花期）



タデ原湿原



阿蘇くじゅう国立公園

指定：1934 年（昭和 9 年）

公園面積：72,678ha（くじゅう地域 18,310 ha）

4. 運営体制

事務局

九重町役場 商工観光・自然環境課

職員紹介（くじゅう地区管理運営協議会 職員）

| | |
|----------------|-------|
| 種村英大（たねむらえいだい） | 業務責任者 |
| 村松優子（むらまつゆうこ） | 自然解説員 |
| 鳥越 遥（とりごえはるか） | 自然解説員 |
| 山下由貴子（やましたゆきこ） | 自然解説員 |

くじゅう地区管理運営協議会の構成

環境省、大分森林管理署、大分西部森林管理署、大分県、九重町、竹田市、九重の自然を守る会、大分県立社会教育総合センター九重青少年の家、九重・飯田高原観光協会、筋湯温泉観光協会、筍ノ口温泉観光協会、久住高原観光協会、学校法人福岡大学、株式会社おおいた観光サービス（オーベルジュ・コスモス）、飯田高原観光株式会社（長者原ヘルスセンター）、やまなみ観光株式会社（レストハウスやまなみ）、有限会社みやま商店、寒の地獄株式会社（寒の地獄旅館）、有限会社星生温泉（九重星生ホテル）、株式会社セイビ九州（ホテルやまなみ荘）、株式会社まきのとコーポレーション（九重観光ホテル）、九重ヒュッテ、株式会社エルランチョ・グランデ、有限会社牧ノ戸峠レストハウス（牧ノ戸売店）、九重町飯田農業協同組合（飯田高原ドライブイン）、有限会社法華院温泉（法華院温泉山荘）、有限会社くじゅう倶楽部、九重森林公園株式会社（九重森林公園スキー場）、株式会社橋本建設、株式会社ア・マ・ファソン（オーベルジュ・ア・マ・ファソン）、株式会社星野リゾート（界 阿蘇）、飯田高原デザイン会議、一般財団法人セブン・イレブン記念財団（九重ふるさと自然学校）、NPO 法人久住高原みちくさ案内人倶楽部、有限会社吉武建設（くじゅうやまなみキャンプ村）、特定非営利活動法人くじゅうネイチャーガイドクラブ（敬称略・順不同）

くじゅう地区管理運営協議会賛助会員

九州横断観光株式会社（朝日台レストハウス）、九州電力株式会社（八丁原発電所）、九州林産株式会社林業部、福岡県中学校体育連盟、福岡県高等学校体育連盟（敬称略・順不同）

くじゅう地区管理運営協議会

【事務局】九重町役場商工観光・自然環境課

【事務所】長者原ビジターセンター

【住所】〒879-4911

大分県玖珠郡九重町大字田野 255-33

【電話】0973-79-2154

【ホームページ】<http://kyushu.env.go.jp/nature/tyojyabaru/>

【入館料】無料

【開館時間】9:00～16:00（5～10月は9:00～17:00）

発行 / 平成28年3月31日